

農地利用最適化推進委員応募

応募者(応募した者)												
氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況				応募する区域	農業委員会委員への応募の有無	応募する理由
				年月日	職名・役職名等	営農類型	主な作物	経営規模	形態			
梶田 智志	男	45	農業	平成13年4月 平成15年3月 平成15年4月	(有)グリーンハウス就職 (有)グリーンハウス退職 梶田農園就農	水稲 施設園芸	米 キュウリ	150a	専業	第2区	無	長年、専業農家としてやってきて、地域の高齢化や担い手の不足が表面化してきました。遊休農地の増加、有害鳥獣の被害も深刻化しており、どうにかしたいと思いました。農地利用最適化推進委員に応募し、地域の方々と協力して持続可能な農業に取り組みたいです。地域計画の達成には、農地利用最適化推進委員の現場での活躍が重要であり、農地の集積・集約化に向けて頑張りたい。
枝村 慎一	男	76	農業	平成16年6月30日 平成28年12月31日 平成29年1月 令和3年2月10日	西日本旅客鉄道(株)退職 JR西日本レンタカー&リース(株)退職 自宅にて農業 農地利用最適化推進委員就任 現在に至る。	水稲	米	108.8a	専業	第8区	無	現在、第8区担当で、農地利用最適化推進委員を担当しています。担当エリアの現状は4～5年前の状況とは違い、耕作放棄地が拡大しつつあり、管理が困難な状況になって来ています。地域農業の活性化に尽力したいと考えます。農地利用最適化推進委員に応募し、地域農業の活性化に尽力したいと思います。
植村 隆志	男	77	農業	H29.4 ～R6.3 H29.11～	大道畑自治会長 農地利用最適化推進委員	水田作 野菜作	米 露地野菜	120a	専業	第10区	無	農地利用最適化推進委員として担当地区の荒廃した田畑を見回っていて、この農地を再生する方法があるのか、どのようにすれば可能か、何が必要なのか、ということを考えている時代になっています。担い手への農地の集積を推進し、耕作放棄地を減少させ、地域に合った農業を模索しながら、持続可能な農業を目指す手助けをするため、農地利用最適化推進委員に応募します。
西田 直和	男	78	農業	S46～H19 内出向10年	(株)アサヒパン	水稲 露地野菜 (家族経営)	米 カボチャ等	150a	専業	第11区	無	今期で後継者を見つけて辞める気でしたが、後継者が決まらないため、もう一期頑張りたいと思います。荒廃した農地を少なくしたいと努力はするものの、やはり一人では何事も進捗状況が悪く変化が見られず、機械が増えるばかりで倒産しそうですが、力が絶えるまで頑張るつもりです。
中島 一雄	男	77	農業	平成28年3月31日 平成29年7月20日	山口宇部農協退職 農地利用最適化推進委員	水稲作	米	130a	専業	第5区	無	現在、推進活動をしている担当地区は中山間地域で、特に近年就農者の高齢化、後継者不足で農地の荒廃が一段と進んでいる。また、農産物価格の不安定化で農家経営は大変厳しい状況となっている。この問題を解決するには、農地の集積による経営の効率化による新規就農者の育成が課題となっている。安全、安心な生活環境を作るためには、水田の荒廃を防ぎ地域全体で新規就農者の応援が必要である。
前島 昭博	男	56	会社役員	平成25年10月	株式会社花の海代表取締役役に就任 現在に至る	野菜作 果樹作 花き作	野菜 花苗 イチゴ	2280a	専業	第13区	無	今から30年前、当時、私は研究者を目指して農学を学んでいましたが、「農学栄えて農業滅びる」という言葉に感化されて産業としての農業に興味を持つようになりました。そこで、「農業基盤がない青年にも農業ができる場づくり」を理念としていた山口県山口市阿東の船方農場グループに入社して、法人経営としての農業に取り組んでまいりました。長年、耕作放棄地であった埴生干拓地で大規模園芸農場を始めて、はや21年が経ちます。農地利用最適化推進委員として地域農業の発展、そして日本農業の発展のためにより一層の努力をして参りたいと考え応募致しました。
野村 勝義	男	51	農業	令和4年1月 ～	自然農法野村農園 代表・生産者	水稲 露地野菜	人参 ジャガイモ さつま芋	180a	専業	第1区	無	令和4年1月より直売を始め、自然農法を元として環境保全型農業に取り組み、現在まで山陽小野田市産の農産物を生産・販売しています。前期より農地利用最適化推進委員として活動していますが、今後も活動に参加し、遊休農地の解消と担い手の確保などに努めたい。